

# 第46回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

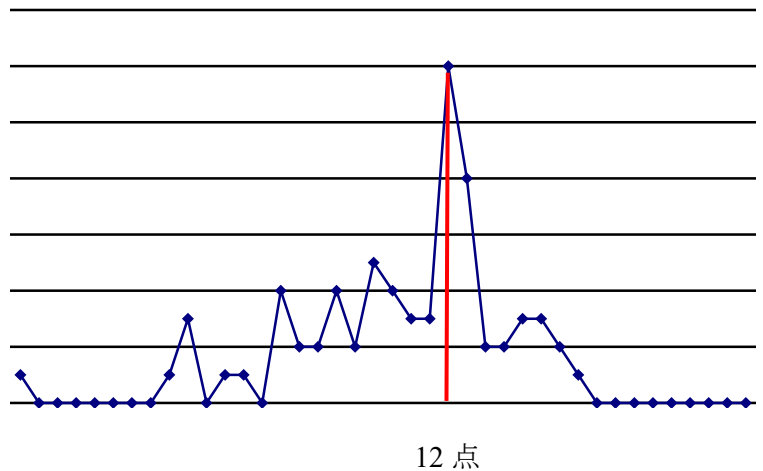
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

## 1. 実施概要

検 定 日：2021 年 12 月 12 日（日）  
検 定 会 場：東京・名古屋・大阪  
検 定 時 間：120 分  
解 答 形 式：論述形式（記述）  
申 込 人 数：75 名  
受 検 人 数：69 名  
認 定 者 数：32 名（認定率 46.4%）

## 2. 認定点

認 定 点：12 点（20 点満点）  
最 高 点：15.5 点  
最 低 点：0.5 点



## 3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 完全性
  2. ビューロー会議
  3. 生物圏保存地域

- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
- |         |       |
|---------|-------|
| 国際的援助   | 報告    |
| 教育・広報活動 | 機能・役割 |

- 3 2021 年の世界遺産委員会において、英国の「海商都市リヴァプール」が世界遺産リストから削除された。危機遺産リストに記載されている遺産を、世界遺産リストから削除するという世界遺産委員会の対応の是非について、世界遺産の保護の観点から具体的な事例などを用いつつ、1,200 字以内で論じなさい。

## 4. 総 評

今回は、2 年ぶりの世界遺産委員会における象徴的な出来事であった「海商都市リヴァプール」の世界遺産リストからの削除に関する問題が出題されたため、受検者には想定範囲内の問題であったと考えられる。そのため<sup>3</sup>は文字数が基準に達している解答は多かったが、内容では主観的な「いい」「悪い」で終わってしまっているものも多く、その根拠や理由が十分に示されていないように感じた。また<sup>2</sup>でも、指定語句をただ並べているだけの解答も例年に比べて多く、世界遺産条約の説明と言う点では物足りなさも感じた。一方で全体としては一定以上のレベルで拮抗しており、認定点の 12 点前後に点数が集まっていた。合否を分けたのは、先述のように自説の根拠や理由がはっきりと示されているかどうかであり、解答する際には読者に理解してもらう、説得するという意識が必要と考えられる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「ビューロー会議」では、世界遺産委員会が設置する会議である点と、世界遺産委員会の進行や作業日程の決定を行う点など、この語句説明の問題では複数の要素が入っている必要がある。「生物圏保存地域」などは要素が多いため、どの要素を組み合わせると端的に説明が可能であるか、試験対策の時から意識して考えていたかどうかで点数が分かれた。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。指定語句を羅列しただけの解答では世界遺産条約を十分に説明しているとは言えない。「報告」では誰が何をどこに報告するのかということや、「教育・広報活動」ではどのような教育・広報活動が必要とされているのを書く必要がある。世界遺産条約を説明する問題は毎回必ず出題されているため、400 字で説明する文章を何度か書く練習をしておき、当日になって指定語句に合わせて内容を調整するというのがよいと考えられる。まとまりのある説明がなされている解答はそのような対策がされていると感じた。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：世界遺産の本来の目的は遺産の保護であり、そう考えると世界遺産リストから削除するのではなく、世界遺産委員会などの目の届くところでモニタリングを続けていくべきであるという意見が多くあった。それに加え、世界遺産リストの信頼性担保の観点や、遺産保護に保有国の国力の差が出てしまうなどの独自の視点が入っていた解答は点数が高くなった。一方で、リヴァプール以外の具体的な事例をあまり有効に示している解答は少なく、その点で難しかったようだ。具体例は「保護の観点から具体的な事例」とあるので、リストから削除されたドレスデン・エルベ渓谷のようなものである必要はなく、問題を柔軟に考えると書きやすかったのではないかな。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。